季刊

はまかぜ

国家公務員共済組合連合会
浜の町病院
日本医療機能評価機構・平成16年認定
Hamanomachi Hospital

2021 Jan. 第81号

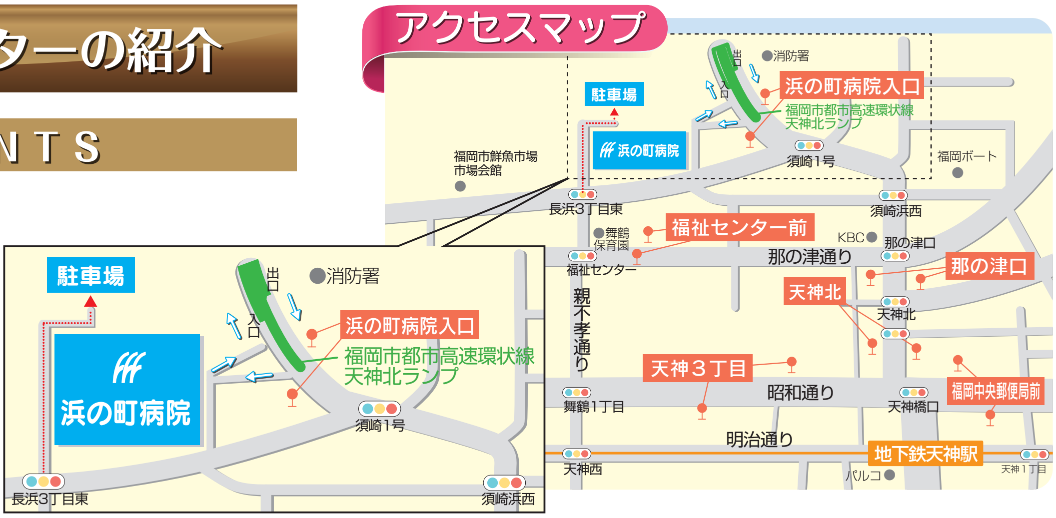
宝満宮竈門神社

特集 脳神経センターの紹介

CONTENTS

- 新年のご挨拶
- 脳神経センターの紹介
- 登録医から一言
- 外来診療担当医一覧

アクセスマップ



〒810-8539 福岡市中央区長浜３丁目3-1 TEL 092-721-0831 FAX 092-714-3262
https://www.hamanomachi.jp

交通アクセスはこちら→

ご挨拶

病院長　一宮　仁

新年明けましておめでとうございます。
昨年は、新型コロナウイルス感染症の脅威に晒されて大変辛い一年でしたが、無事に年を越し、新しい年を迎えることができた慶びと感謝の気持ち、新しい年への願いを込めて、ご挨拶を申し上げます。
昨年の「はまかぜ」新年号では、2020東京オリンピックへの期待等を記しましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行により４月には緊急事態宣言が発令され、オリンピックはもとよりプロ野球、高校野球などのスポーツ、コンサートや演劇などの文化活動は押し並べて延期・中止あるいは制限付き開催となりました。また、国内外の旅行、家族や友人と過ごす時間も自粛が求められ、これまでの日常的な楽しみや歓びが奪われてしまいました。
医療の分野では、感染拡大防止のために病床の利用制限や空床確保、手術や検査あるいは診療そのものを制限しましたし、患者さんサイドでは感染の恐怖による過度の受診控えが起こりました。当院では院内感染の発生予防のためにでき得る限りの対策を講じて、通常診療と新型コロナ感染症診療を両立させてきました。入院患者さんとご家族の皆様にはご心配や不安そしてご不自由をおかけしますが、患者さんを感染から守るべく今しばらく面会制限等のルールをお守り下さいますようお願いいたします。
昨年2月以降、病院職員は通常の何倍もの肉体的、精神的ストレスを抱え続けながらも崇高な志で業務を遂行しています。病院長としてそのような仲間を誇らしく思います。心から敬意と感謝を申し上げます。
誰もが苦労を強いられた１年ではありましたが、新型コロナウイルス感染症による苦難の中で、将来に向けての貴重な教訓を得ることもできました。
みんながマスク着用や手洗い・手指消毒等の感染予防対策を守れば、インフルエンザ等の多くの伝染性疾患は予防可能で、病院においても耐性菌等の院内感染をコントロールできると思います。不要不急の受診や過剰な検査の抑制、電話再診や長期処方の推進等は、医療従事者の労務軽減に繋がり「働き方改革」の一助となります。職場や自宅でも参加できるオンラインでの会議や学会・研修会・講演会は、時間の節約になるばかりではなく、個人に時間の裁量権を与え、これから一層の活躍が期待される女性医師のキャリア形成にとっても大変意義があると思われます。オンライン診療には問題もありますが、医師少数区域等では有効な診療手段になると期待されます。
リモートワークやテレワークの導入は、人々の地方移住も可能にし、家族と過ごす時間を増やし、ダイバーシティーの推進にも繋がることでしょう。CO2削減で自然そして地球環境の回復に繋がるのではと期待してしまいます。
海外ではワクチンの接種も始まりました。治療薬の開発とともに、安全性と有効性が担保され、この新興感染症が一日も早く収束し、穏やかな日常、穏やかな診療が戻ることを切に願います。そして地域の先生がたと連携・協力して地域医療を守り抜きたいと思います。そのためには、社会生活をおくる私たち一人一人が周囲の人々を守る・思い遣る心で行動することが不可欠な責務です。
人類の長い歴史には数多の危機がありました。人々は叡智を結集し、そして結束して苦難を乗り越えてきました。静まらぬ嵐はありません。
愉しい時間が戻り、本年が皆様にとりまして良い一年となりますようお祈りいたします。

ご挨拶

看護部長　**井ノ口　美　和**

　新年明けましておめでとうございます。

　新年早々の御挨拶は出来るだけ明るい話題をと考えておりましたが、新型コロナウイルス感染症（COVID－19）に関する話題は避けることは出来ないと思いました。

　昨年度からCOVID－19によるパンデミックが世界的に起こり、誰もが想像することが出来ない日々を過ごされているのではないかと思います。連日報道される最初の話題は、COVID－19に罹患した患者数の報告が多い傾向にありますが、いつのまにか身体が拒否反応を示すことも正直あります。

　過去の新型ウイルス感染症は、2003年に重症急性呼吸器症候群（ＳＡＲＳ：severe acute respiratory syndrome）が報告され、続いて2012年9月以降、アラビア半島諸国を中心に発生がある重症呼吸器感染症（ＭＡＲＳ：Middle East Respiratory Syndrome）が報告されました。再び未知のウイルスへの対策が必要となっています。ようやくCOVID－19に効果がある治療法やワクチンの開発、我々が実施すべき感染症予防対策等、終息することは難しくても、小さな道筋は見えてきたような気がしています。

　2020年4月看護部長として就任後、『激動』の9カ月を過ごして来ました。また、あらゆる事象に対しての『挑戦』を行う必要もありました。病院の方針に則り、看護体制を大きく変更してきました。当院に限ったことではありませんが、入院されている患者さんは面会が制限されており、かなり辛い想いをされていると思います。COVID－19感染症患者への対応としては、必要なケアは提供していますが、出来るだけ接触機会を減らさなければならない状況になっています。看護部の理念である「心によりそう看護」が充分提供出来ない現状にジレンマを感じながら看護職員は働いています。偏に病院でのクラスター発生を起こさないために、出来る限りの対策も講じて来ました。3密を防ぐために、院内を対象にした開催すべき会議や研修会も第1波の時点ではかなり中止となりました。時期を見ながら徐々に再開はしましたが、院外対象のコメディカルの方々へは会議や研修等は当院では実施できず、Ｗｅｂ開催での方式に変更している段階です。看護学生の実習も殆ど受け入れることが出来ず、臨床の現場を十分に知らない看護師の育成は今後の課題になると思われます。更に、2022年新入職者対象のインターシップや就職説明会も開催できない現状です。政府のIT戦略である「世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画」が令和2年7月に閣議決定されています。看護部門としてデジタル化への取り組みを早急に行い、臨床現場での体験が出来なくても、疑似体験出来るようなコンテンツの開発を早急に取り組む必要性も感じています。

　2020年4月7日時点のＷＨＯ（世界保健機関）の報告書では、COVID－19のパンデミックは世界的な看護師不足を浮き彫りにしていると指摘されています。看護師育成に向けた投資を増やさなければ、2030年までに世界で看護師が460万人不足すると予想されています。現実に他の都道府県に於いて看護師が不足しており、国への要請が行われ、自然災害時とは異なる看護師の派遣も行われる事態となっています。

　家族や友人、同僚との食事や旅行等、今迄あまり意識していなかった当たり前の日常が送れることの大切さを日々感じると同時に、COVID－19の終息までにはまだまだ時間が必要であると誰もが感じています。その中で病院勤務者の私たちも“withコロナ”をどう乗り越えることが出来るのか。この難局での経験を、今後の看護師人生にどのように生かすのか、まだ明確な答えは見つかっていません。今までとは違う視点での診療及び看護を提供することも必要であり、将来を見据えた対策も講じる必要を痛感しています。

　COVID－19終わりの見えない現状ではありますが、本年も様々な課題に職員と協力して取り組んでまいります。どうぞご支援の程、宜しくお願い致します。

脳神経センターの紹介

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 脳神経センター長　松　角　宏一郎

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院（以下、当院）は戦後復興期の昭和26年4月に聖福病院付属「浜の町診療所」として開設され、その後福岡市における地域中核病院としてほぼ70年近くの歴史を刻んできた急性期総合病院ですが、その歩みの中で、平成12年に脳神経外科、神経内科および精神科（外来）の連携を密とする目的で「脳神経センター」が設置されました。

今回は、「脳神経センター」を構成する各診療科の紹介をさせて頂きます。

① 脳神経外科

スタッフ：松角 宏一郎、松尾 諭、檜垣 梨央

脳神経外科（以下、当科）は設立から50年以上の歴史を有し、福岡の地域中核病院として最も歴史のある脳神経外科であり、脳神経外科疾患全般についての外来診療を行っています。入院、手術加療に於いても、救急部・神経内科・放射線科など他診療科とも協力して、小児先天奇形以外、ほぼ全ての領域の脳・脊髄疾患の治療に対応しています。

当科の特長として、手術症例の内訳に於いて脳腫瘍症例の割合が比較的高く，特に間脳下垂体病変に対する経鼻経蝶形骨洞的腫瘍摘出術が多いのが特徴です。2007年からニューロナビゲーション装置を，2011年より神経内視鏡装置を脳神経外科手術に導入し，より安全かつ正確な治療が可能となりました。

また、手術に際しては神経合併症の予防・回避を目的として種々の術中神経モニタリング：運動誘発電位（MEP：Motor evoked potential）、体性感覚誘発電位（SEP：Somatosensory evoked potential）および聴性脳幹反応（ABR：Auditory Brain-stem Response）などを積極的に併用して、良好な手術成績を収めています。

動脈瘤治療に関しては、従来、原則として開頭クリッピング術を第一選択としてきましたが、2010年からは脳血管内治療が当科でも施行可能となったため、破裂と未破裂動脈瘤の相違、動脈瘤の局在・形状およびサイズ、また患者さんご自身の希望などを充分に検討しながら治療方針を決定しており、特に近年は脳血管内治療（コイル塞栓術）を選択する症例の割合が増加しています。

今後も安全かつ確実な脳神経外科複合治療を目指して努力して参ります。

② 神経内科

スタッフ：佐竹 真理恵、松山 友美

松山医師と二人で神経内科を担当して13年になります。

神経内科は急性期～慢性期、遺伝性の希少疾患から、頭痛、めまいなどの一般的な疾患と本当に色々な疾患を診る科です。超高齢化社会に伴い周辺症状を含めた認知症(アルツハイマー型老年認知症、レビー小体病など)、パーキンソン病などの変性疾患、一見認知症に間違われたりするてんかんなどもあります。

2016年から脳梗塞については超急性期・急性期に対しては脳外科でtPAや脳血管治療を含め対応していただいています。神経内科では時に発症がやや分かりにくい脳梗塞や一過性脳虚血発

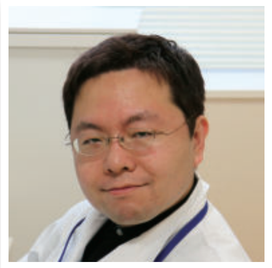
作、悪性腫瘍に関連するトルーソー症候群、脳血管炎などに伴って起こる脳梗塞・脳血管障害に対応しています。

主幹動脈狭窄症を認めた場合は速やかに脳外科にコンサルトをしています。

また2019年から脳血管障害でも統合失調症やうつ病など精神疾患がある患者さんでは、精神科にコンサルトして安心して入院加療に当たるようになりました。脳外科、精神科と連携して診療に当たっています。神経内科の疾患が疑わしいときは、お気軽にご紹介していただければと思います。

③ 精神科

スタッフ：藤本　昌大



当科は、常勤1名と日替り非常勤での診療体制です。脳梗塞や脳出血が起こると、脳の組織が直接ダメージを受けてしまいます。その結果身体的な変化だけでなく精神面の変化が起こることもよく知られています。

脳血管障害後にみられる精神症状・疾患の例

- 気分の落ち込み、意欲の減退、考えがまとまらない
- 不安、不眠
- 集中力の低下､うっかりミス､気が散りやすい
- 無気力、感情や興味関心の欠如、感情の表出が極端になったり変わりやすかったりする
- 性格が変化した、分別に欠ける行動が増えた
- 計画的に行動できない、段取りが悪い
- 記憶力が悪くなった、昔のことを思い出せなくなった

脳の機能は多岐に亘りますので、これらの症状が全ての方に起こるわけではなく、また症状の出方も様々です。脳血管障害の発症直後はあまり目立たなくても、時間が経ってから徐々に症状が明らかになることもあります。

例えば脳梗塞や脳出血などの脳血管障害が起こった方にはうつ症状が見られやすいことが知られており「脳卒中後うつ」と呼ばれます。脳血管障害による直接のダメージのほか、脳内で情報を伝える経路の障害によって引き起こされていると考えられています。症状としては一般的なうつ病と大きな違いはないのですが、一方で脳卒中後うつで見られる症状は脳血管障害で生じる他の後遺障害（情動失禁、無気力・無関心、認知機能低下、高次脳機能障害など）と区別が付きづらい場合や見過ごされてしまう場合があります。

治療を行うことでADLや認知機能、生存率の改善を認めた報告もありますので、脳卒中後うつと診断できれば薬物療法を含めた治療を行うことは意義があるでしょう。後遺障害の程度によっては機能訓練やリハビリテーションを組み合わせて治療･支援を行っていく必要もあります。

また脳血管障害後に興味関心が急になくなり不活発、無気力が目立つようになる方がいます。うつ病でも意欲の低下や興味関心を示さなくなることがしばしばありますが、この場合は「そもそも意欲がない」「なにか行動しようとする気が起らない」状態で「アパシー」と呼ばれます。障害を受ける部位により症状の起こる理由の違いはあるもののうつ症状とは異なる病態と考えられています。治療薬に対する反応性も異なりますし薬物療法のみではなかなか上手くいかないことも多いです。自発的に行動を起こすことが難しくなっているため、周囲の人が積極的に声をかけて動作を促すなどの関わりが求められるでしょう。

ほかにも感情のコントロールが難しくなる、よく考えずに行動を起こしたり社会的に問題のある行動をとってしまったりするようになる、物忘れや集中力が悪くなるなど、脳血管障害のあとには様々な症状を呈することがあります。すでに述べたように患者さんによって症状の現れ方は一定ではなく、その方の状態に応じた治療や支援の計画を立てていくことが必要です。当院においても脳神経外科や神経内科、リハビリテーション科などと必要に応じて連携をとり、診療に当たっています。

以上、神経、精神科疾患の治療を担当する当院の「脳神経センター」をご紹介させて頂きました。

当院の臨床診療の強みは、各診療科スタッフのスキルや経験値が高いだけでなく、各科間の垣根が低く、担当疾患に付随する合併・既往症に対する相談やコンサルテーションが非常にし易いことだと考えます。

今後も安全かつ確実な治療を目指して、患者さんご自身かつご紹介頂く医療機関の先生から信頼される脳神経センターたるべく努力していきたいと存じます。

文責：脳神経センター長・脳神経外科部長　松角 宏一郎

地域連携だより 登録医から一言

三宅内科クリニック

〒810-0022　福岡市中央区薬院2丁目5-15
TEL 092-741-2705

診療時間	月	火	水	木	金	土	日･祝
9:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
14:00～18:00	○	○	○	○	○	×	×

　中央区薬院にて開業をしております、三宅内科クリニックの高田真紀子と申します。2018年から理事長である父の三宅恒徳と2人体制で日々の診療にあたっております。地域のかかりつけ医として、一般内科をはじめ、高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病や健康診断の結果のご相談、また内視鏡検査など、皆様の日常の健康をサポートさせていただいております。また、現在はコロナ禍という今までに経験したことのない状況ですが、新しい医療の形を模索しながら、地域の皆様に安心して頂ける医療を提供出来るよう、取り組んでいきたいと思います。

　浜の町病院は、診療科も非常に充実しており、またご紹介させていただいた患者さまを丁寧に見ていただき、いつも本当に感謝しております。これからもよろしくお願い致します。

しげた消化器科・外科医院

〒814-0123　福岡市城南区長尾1-19-1
TEL 092-865-6655

診療時間	月	火	水	木	金	土	日･祝
9:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
14:30～18:00	○	○	○	×	○	×	×

　2007年5月より城南区長尾1丁目でこはら消化器科・外科医院を継承いたしました。早いもので13年が経過いたしました。出身は、長崎大学第1外科ですが、今は外科処置はほとんど無く消化器内科で経鼻内視鏡を頑張っております。コロナ禍で大変な時代を迎えております。診断や治療法で困ったときにいつも的確な診断や治療をして下さる浜の町病院に、全幅の信頼を寄せております。今後とも宜しくお願い致します。

テレサ福岡天神ウィメンズクリニック

〒810-0041　福岡市中央区大名1丁目2−5イルカセットビル6階
TEL 092-718-7888

診療時間	月	火	水	木	金	土	日·祝
10:00〜14:00	○	○	○	×	○	○	×
15:00〜19:00	○	○	○	×	○	○	×

2020年4月13日に新規開院しました、中西貴子と申します。浜の町病院には2017年度から2年間勤務させていただきました。特に腹腔鏡手術や不妊内分泌分野についてご指導いただいたことは、現在の診療につながっております。

当院はライフサイクルによって変化する女性特有の不調に対して、医師、助産師、看護師、心理士と、多職種での心身ケアを行っています。

地下鉄天神駅や西鉄大牟田線福岡天神駅から国体通り沿いに警固方面へ徒歩8分のビル６階フロアに位置しています。

浜の町病院の先生方には、大変お世話になっております。当院が「女性のための、かかりつけクリニック」となるよう、努めて参ります。今後も宜しくお願い申し上げます。

なごみ泌尿器科クリニック

〒810-0055　福岡市中央区黒門2-31　佐藤ビル2階
TEL 092-718-0753

診療時間	月	火	水	木	金	土	日·祝
9:00〜13:00	○	○	○	○	○	○(〜14時)	×
14:30〜18:00	○	○	×	○	○	×	×

中央区黒門（福岡市地下鉄唐人町駅6番出口から天神方面へ徒歩約3分）で泌尿器科クリニックを開業している御厨学と申します。

当院は環境に配慮し、患者さんのお話をしっかり伺い、コミュニケーションを図りながら診療する事を大切にしています。

尿の症状（赤い、出にくい、近い、もれる）等でお困りでしたらお気軽にご相談下さい。

浜の町病院の皆様には、いつも迅速かつ丁寧に対応していただき感謝しております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

国家公務員共済組合連合会　**浜の町病院外来診療担当医**

■ 救急患者紹介連絡先　月～金（8：30 ～ 17：15）　Tel 092-721-9913（連携課直通）／ Fax 0120-721-991（連携課直通）
上記以外の時間及び土日祝　Tel 092-721-0831（病院代表）

受付時間：午前8：30～11：00　（令和3年1月5日現在）

診療科	時間	専門	月	火	水	木	金
内科	午前	総合診療	大串 汀	原田由紀子	大串 汀	隅田幸佑	原田由紀子
		血液	衛藤徹也	吉田周郎	下川知則	林 正康	栗山拓郎
		循環器	井上晃太	萬納寺洋士	臼井 真	船越祐子	塩見哲也
		消化器	尾石義謙	山縣 元	瀬尾 充	山縣 元	尾石義謙
		腫瘍	田中吏佐	田中吏佐	田中吏佐	田中吏佐	三ツ木健二
		肝臓	柴田倫子	髙橋和弘	具嶋敏文	髙橋和弘	髙橋和弘
		呼吸器	前山隆茂	前山隆茂	前山隆茂	前山隆茂	前山隆茂
			麻生達磨	柳原豊史	麻生達磨	大後徳彦	柳原豊史
		糖尿病内分泌	渡邉洋子	平松真祐	平松真祐	渡邉洋子	平松真祐
			–	–	–	–	渡邉洋子
		腎臓	菰田有佑	吉田鉄彦	出口孝史	出口孝史	吉田鉄彦
		膠原病	–	西村直矢	吉澤誠司	西村直矢	–
		感染症	隅田幸佑	原田由紀子	原田由紀子	隅田幸佑	原田由紀子
脳神経センター 脳外科（月・水・金）の午後、神経内科の午後は紹介患者と予約のみ	午前	脳外科	松角宏一郎	–	松角宏一郎	–	松角宏一郎
			松尾 諭		松尾 諭		松尾 諭
		神経内科	松山友美	佐竹真理恵	佐竹真理恵	佐竹真理恵	佐竹（新患のみ）
			–	松山友美	–	松山友美	–
	午後	脳外科	松角宏一郎	–	檜垣梨央	–	松角宏一郎
			松尾 諭		–		松尾 諭
外科 ※木曜日の午後はDr大城戸への乳腺紹介のみ	午前	消化器・一般	山元啓文	一宮 仁	河野 博	山元啓文	植木 隆
			大河原一真	植木 隆	渡邉雄介	田村公二	田村公二
			–	河野 博	–	渡邉雄介	–
		呼吸器	–	–	松本耕太郎	松本耕太郎	–
		乳腺・甲状腺	大城戸政行	大城戸政行	河野 博	田村公二	田村公二
			溝口公久	河野 博	–	–	–
	午後	乳腺	–	–	–	大城戸政行（紹介新患のみ）	–
産婦人科 新患は紹介のみ ※受付時間 月・水・金 8：30～11：00 火・木 8：30～10：30 産科初診のみ婦人科で受付	午前	産科	桑原正裕	中村友里恵	河村英彦	田中章子	厚井知穂
			松水優美	–	–	–	月橋瑞希
		婦人科	上岡陽亮	前原 都	上岡陽亮	大石博子	上岡陽亮
			大石博子	桑原正裕	前原 都	厚井知穂	大石博子
			田中章子	河村英彦	田中章子	月橋瑞希	前原 都
			厚井知穂	–	中村友里恵	–	桑原正裕
			中村友里恵	–	月橋瑞希	–	河村英彦
整形外科 新患は紹介のみ ＊受付時間 月・水・金 8：30～10：30 火・木 8：30～11：00	午前	整形外科	紹介新患のみ（当番医）	馬渡太郎	紹介新患のみ（当番医）	松井 元	馬渡太郎
				松井 元		井口貴裕	井口貴裕
				末田麗真		光安浩章	光安浩章
				萩尾 聡		末田麗真	馬場省次
				山本瑛裕		萩尾 聡	–
形成外科	午前	形成外科	松本大輔	–	松本大輔	–	当番医
			舟橋ひとみ		舟橋ひとみ		
			久永佳奈		久永佳奈		
泌尿器科	午前	泌尿器科	小林 武	応援医師	小林 武	応援医師	小林 武
			伊藤大輔	–	伊藤大輔	–	伊藤大輔
小児科 午後は予約のみ 内分泌 第3水曜日／循環器 第4木曜日のみ（予約）	午前	小児科	原田頌隆	鷲尾真美	西間大祐	武本環美	原田頌隆
	午後	小児科	原田頌隆	西間大祐	武本（小児神経）	1ヶ月健診	鷲尾真美
			予防接種	–	内分泌（第3）	循環器（第4）	健診・予防接種
耳鼻咽喉科 新患は紹介のみ	午前	耳鼻科	安井徹郎	玉江昭裕	–	玉江昭裕	岡部 翠
			松永啓秀	安井徹郎		岡部 翠	宮﨑 孝
			–	松永啓秀		安井徹郎	–
			–	宮﨑 孝		松永啓秀	–
眼科	午前	眼科	疋田伸一	–	疋田伸一	（当番医）	疋田伸一
			舩津 淳		舩津 淳		舩津 淳
皮膚科 新患は紹介のみ	午前	皮膚科	竹内 聡	小田真理	竹内 聡	竹内 聡	竹内 聡
			小田真理	–	小田真理	–	小田真理
放射線科	午前	放射線科	角南俊也	角南俊也	角南俊也	角南俊也	角南俊也
			瀬戸口太郎	瀬戸口太郎	瀬戸口太郎	瀬戸口太郎	瀬戸口太郎
		放射線治療外来	舛本博史	舛本博史	舛本博史	舛本博史	舛本博史
			吉川真由美	吉川真由美	吉川真由美	吉川真由美	吉川真由美
緩和ケア外来 ※原則として当院で診療を行っている患者のみ 11:00～12:00（完全予約制）	午後	緩和ケア外来	永山 淳	永山 淳	–	永山 淳	永山 淳
健康医学センター（要予約）	午前	外来ドック	松尾千華	松尾千華	松尾千華	松尾千華	松尾千華

発行責任者／浜の町病院広報委員会　委員長　植木　隆